

早慶戦に辛勝

部復帰の期待

第三十三回早慶定期戦は十月二十三日、早大記念会堂で行われた。フルールに先勝した早大は、続くエペを落としたものの、最後の対戦成績17勝16敗と一ツリした。

対戦成績17勝16敗

【戦評】フルール早大はメンバー四人とも二年生。対する慶大も、主将伊藤を中心に掲げながらも、残る三人は下級生と、こちらも来年度リーグ戦をにらんだ顔ぶれ。最初の一巡は二勝二敗のタイ。まずまずのスタートだった。ところが二巡目、遠藤、川端、明代が連敗し三勝五敗と大きくリードされた。そして次の試合、慶大側はベテラン伊藤、早大にとり最大のピンチである。ここで勝つか負けけるかが、後半は早大の若さが爆発。

(成績) 早大 2-1 慶大

▼フルール

○ 遠藤	5-2	塚本●
○ 春日	5-0	小倉●
○ 明代	2-5	伊藤○
○ 川端	3-5	伊藤○
○ 春日	5-2	塚本●
○ 遠藤	2-5	伊藤○
○ 川端	2-5	小倉○
○ 明代	2-5	白井○
○ 春日	5-3	伊藤●
○ 川端	5-4	塚本●

○ 遠藤	5-4	白井●
○ 明代	5-3	小倉●
○ 川端	1-5	伊藤○
○ 春日	5-2	白井●
○ 明代	5-3	塚本●
○ 遠藤	5-4	小倉●
○ エペ	4-11	慶大
○ 早大	3-5	小倉○
○ 明代	3-5	小倉○
○ 横須賀	5-4	入交○
○ 富山	0-5	塚本○
○ 遠藤	5-5	柏木×

終止押し寄せムードで慶大を圧倒した。前半戦のきちなさ、重苦しさがあるでウソのような試合展開となったのである。一試合に一度は訪れる勝負のカギをキチンとものにしたための勝利、そして若さの勝利だった。その意味で春日は殊勲賞もののお手柄だったといつてよいだろう。

▼エペ これは実力が違いすぎた。ことエペに関しては、慶大は一部リーグAクラスなみの力を備えている。56年度のリーグ戦ではエペに全てをかけ、総合で最下位を免れようという必死の姿勢がありありとうかがえる。

これに対し早大は、二部で総合優勝を狙っているため、三種目に平均した戦力を養う方針で進んでいる。その力の差がハッキリ出した試合となつてしまった。勝因敗因をあれこれ探すが以前の試合である。

▼サーブル その裏返しとなつたのがサーブルだ。慶大側は明らかに手薄。ここまで手が回らないといつた感じのメンバー。ところが早大は二部で優勝できる戦力である。力の差は歴然。慶大側は四年生の名手三矢がさすがと思わせる剣さばきをみせ三勝。これでどうやら試合らしい内容だった。早大側で特筆すべきことは、三種目出場の明代が三勝したこと。元来がエペ陣であるが、その運動神経のよさを買われ、ヒマをみてはサーブルもやっていたといふ選手。本人は本業のエペで振舞なかつたのを大いに悔んでいるが、サーブルではそれを帳消しにする活躍をみせたといつてよい。それと内田、春日の安定した強さ。これで川端がもう一ツ力をつけてくれるれば、一部リーグでもかなりなところまでいける戦力になる。

報 光 会 報

昭和56年 2月10日 発行
 編集 早稲田大学稲光会
 発行 北原 輝
 題字 滝口 進
 印刷 進 久 宏
 第4巻第5号

◇2面 恒例記念パーティ
 ◇3面 写真集
 ◇4面 早慶戦成績



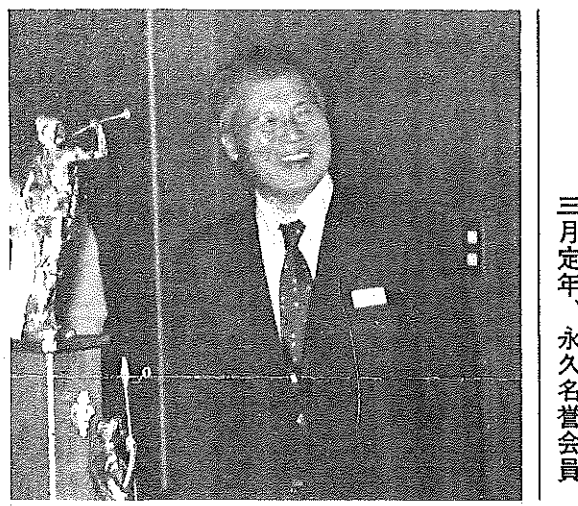
笑って泣いて 35周年

▼昭和五十六年は、われわれ早稲田大学フェンシング部が誕生してから三十五年目にあたります。早いもので、三十周年記念を盛大に行つてからでさえ、早や五年も経過しました。

▼三十五年の間に、いろいろなことがありました。剣道部から派生した草創期。大学日本一の座に着いた三十年代前半の黄金時代。その後の低迷期。浮き沈みは世の習いとはいへ、

その時々汗し、笑い、涙した早稲田剣士がいます。その集大成が稲光会です。すばらしき仲間集。まずは三十五年、おめでとうございます。

滝口先生ご苦労さま



▼滝口先生がこの三月で定年退官されます。これも歴史の一ページでしょうか。昭和二十一年、部創設と同時に部長になられ、以来公私にわたつて面倒をみていただきました。四十六年、平現部長に後を託し体育局長の重責につかれてからも、なにかとご配慮いたしておられます。名誉会員として永久に当会の一員になっていただきますが、長年のご功績をたたえ、心からお礼を申し上げます。

体育館11月オープン

前号でご案内した新体育館の完成図です。写真、安部球場と向かい合うようにして、堂々たるたたずまいを見せてくれることになりました。

地下二階、半地下になる部分に専用道場を持つことになりました。目の下のところを大橋に掘り下げ、地階部分の工事を進めているのが現状。当所の手遅れで遅く、オーブンは十一月にズレ込むのではなからぬと見られています。詳細が分りましたらお知らせいたします。

雑報

春日孤軍奮闘

この定期戦、意識的に四年生には出場を遠慮してもらった。主将武市以下、原田、山田、宮下の四人。それぞれにいいところを持った選手たちである。就職問題がからみ練習不十分というものがその理由の一つだが、それが以上に監督としては若い力を試してみたかったのだ。そして、その賭けは吉と出た。これは新シーズン控えて朗報である。こうした事情をよく理解し、ベンチで後輩の試合を熱心に応援していただく四年生諸君にはただただ感謝あるのみ。

- ### ◇56年度メンバー◇
- 部長 平俊文(教育学部教授)
 - 監督 川名宏美(32年度主将)
 - 主将 内田敏朗(法・4年)
 - 副主将 内田敏朗(法・4年)
 - 学連委 横須賀秀人(理工・4年)
 - 主務 春日竜二(一文・3年)
 - 副主務 内田敏朗(社学・3年)
 - 部員 遠藤聡一(理工・3年)
 - ” 明代正美(教育・3年)
 - ” 白井誠(商・3年)
 - ” 園田洋一(理工・3年)
 - ” 内田豊(政経・2年)
 - ” 若月洋人(政経・2年)
- (○は経験者、◎は学院出身)

和やかに記念パーティー

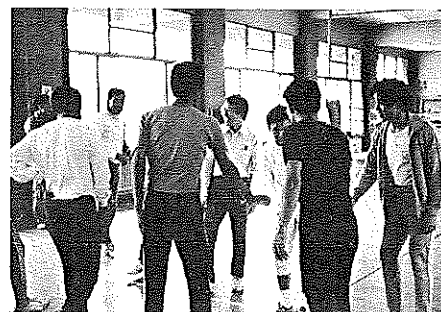
	〔紅軍〕	〔白軍〕
フルーレ	森居 章 D-V ₁ 中田 清 赤井平治 V ₁ -D 成田竜士 植竹 清 V ₁ -D 近藤征一郎 田中 一 D-V ₃ 宮 信雄 小幡 恵 D-V ₂ 吉田友久 (3勝2敗で白軍の勝ち)	
エペ	森居 章 D-V ₂ 中田 清 植竹 清 V ₂ -D 黒田九州矢 田中 一 V ₂ -D 上田耕一 (2勝1敗で紅軍の勝)	
サーブル	赤井平治 D-V ₁ 宮 信雄 森居 章 V ₃ -D 成田竜士 植竹 清 V ₁ -D 吉田友久 北原輝久 D-V ₃ 近藤征一郎 川名宏美 D-V ₁ 成瀬正澄 (3勝2敗で白軍、総合で白軍の勝ち)	



▲平部長から優勝トロフィーをうける成瀬先輩



▲堀先輩の音頭で乾杯



▲「よろしくお願ひします」と握手

稲光会恒例の滝口杯争奪紅白戦と10月10日パーティーは四回目を迎え、ますます盛大に行われました。紅白戦はフルーレ、サーブルを制した紅軍が優勝、通算成績を2勝2敗のタイとした。パーティーには会員、家族約八十人が出席、初の試みのチャリティー・バザールも行い和気合々のうちに幕となりました。

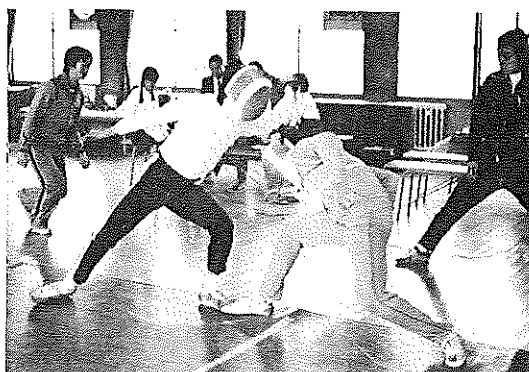


佐藤前監督のごあいさつ

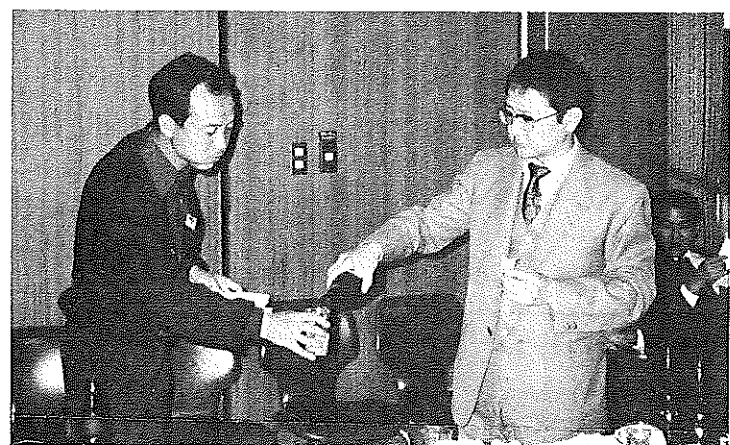
病気よりこつちが大切

ブラジャーはいかが

初のオークションも



▲オットット/バッセしちゃった



▲名剣士の植竹先輩(左)と川名監督



▲「子供が欲しいな...?」小幡先輩



▲賞品のバンティアーを手にハイポーズ



▲植竹先輩(左)とフランス帰りの赤井先輩



▲かつてのプレーボーイ森居先輩(左)と坂本先輩

良きパパは